



場面② 家の勉強での「わからない」の続き

自分で「考える」ことはとても尊く、そして忘れにくいものです。しかし、「どうにもならない」という問題なら、時間制限が必要です。ただでさえやることが多い家での勉強。時間を無駄に使って、睡眠時間を失ってしまうと本末転倒。 次回に続く

「何分間は自分で考えてみよう」と時間制限をします。時間までに解決しないなら、いさぎよく解答例を見て、解き方を研究しましょう。

ただし、解答を写すだけでは逆効果。写すだけで勉強したような気分になり、「わかったような気分」になってしまうから注意が必要です。それを避けるためには「何でこうなるんだろう」と常に疑問を持ちながら解き方を研究しましょう。そして、「わかった」と思ったら必ずもう一度、解答を見ずに自分で解くことが大切です。

それでも「わからない」が修理できないときは、「人に聞く」に切り替えましょう。翌日、先生への質問事項として自主学習ノートに記録し、教科担当の先生に質問すれば、最高級の質問ができるでしょう。

場面③ 受験・テスト勉強での「わからない」

これは時間が限られます。テスト勉強は時間との勝負。「時は金なり」「下手な考え休むに似たり」。「わからない」と感じた次の瞬間には「解答例」を見ましょう。そして解き方を研究し、後は場面②と同じです。必ず最後は自力で解きましょう。

テスト直前ではなく、計画立てて復習していくと余裕を持って故障箇所の修理が出来ます。

「わからない」を整理し 「自主学習ノート」に質問ページを！

「わからないこと」はなんとか先生に質問して「わかる」ようになりたい。そんなあなたへ、「正しい質問の仕方」です。

さて、本題に入る前に「質問する」ということについて少し考えましょう。自分で「わからない」と感じているのに、なかなか質問できないという経験はありませんか。なぜ質問出来ないのでしょうか。「恥ずかしいから」か「面倒だから」か。確かにこのふたつは「質問する」という行動大きな壁となっていることでしょう。

しかし、ただ「面倒だから」だけではないようです。実は、質問するということ自体が大



変難しいことで、高レベルで、高次元の行動なんだそうです。なかなか質問できないというのは当たり前のことだったのです。

中学生の勉強に効果的な「質問力」について紹介しましょう。

ステップ① 的確な質問づくり まずは質問の準備

多分、先生に質問しても、「何がわからないの」と聞かれると「うう……」となるか、攻撃的な人は「わからへんから、わからん」とムカツクかもしれません。それを避けるためには、質問前に「どこがわからないか」をはっきりさせましょう。

先生もどこがわからないか、わからなければ説明のしようがありません。あなたの言葉や行動から「わからない」と感じているところを、探っていかなければならないのです。だから事前に、声に出して「質問の練習」をしてください。自分の言葉で話すことで「本当に何がわからないのか」が整理され、「的確な質問」ができるでしょう。

ステップ② 自主学習ノートに「質問ページ」を

「的確な質問」を書き込みましょう。数学の問題だったら、問題文まできちんと書きましょう。先生がそれを見て、「ここがわからないんだな」とはっきりわかるようにていねいに書きましょう。これは、家の勉強の中でできるはずです。

ステップ③ 後は実行あるのみ

先生に質問。こう一言告げればいいだけです。「この問題を教えて下さい。」そして、ノートを出します。ノートに質問が書かれているから、いろいろしゃべる必要はありません。時間があれば先生は、説明しながらノートに解き方を書いくれるでしょう。また、時間が無ければノートを預かって、「昼休みに」とか「放課後でいいか？」など対応してくれるはず。

「質問ノート」の効果

- ①先生に、少ない言葉で的確な質問ができる。
- ②先生が忙しそうなおときにはノートを預けておけばよい。
- ③先生の前では完全に理解できなくても、家に帰って復習することができる。
- ④「ノート」に書かれるあなたの質問と先生の説明は、あなたの弱点をカバーする世界に一冊の究極の参考書となる。
- ⑤テスト前の総まとめのときなどに、あなたの守護神ともなる。

「質問ノート」は1冊で5つ以上も良いことがある。

先ずはやってみませんか。この勉強方法はあなたにとって、ピッタリの方法かもしれません。

※「質問ノート」は各教科あった方が良いのですが、まずは「自主学習ノート」でスタートしてみてもいいですか。

